

## 【取組内容①】 個別別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指すために、ICT活用を明確に位置づけた授業づくり

## 本校の校内研究について

## 7月24・25日夏季校内研修について

## 研究主題

いきいきと思考し、ともに高め合う子どもの育成  
～ICT活用で創る新しい授業・学校のかたち～

以下の流れを参考に、授業づくりを進めていって下さい。

- ①単元、授業場面の設定をする。(学年, 教科, 単元・題材名, 第〇時・・・)
- ②単元, または本時でどのような力をつけることができれば良いのか検討する。(ゴールイメージを持つ。)
- ③本時では, どのような教科の見方・考え方を大切にしたいかについて検討する。  
(前回の校内研修で提案して頂いた, 各教科のポイントを参考に)
- ④学年部ごとに児童の実態について話し合う。(学習面・生活面等)  
・良いところ  
  
・課題
- ⑤ICT活用方法案を検討する。(つきたい力に向けて, 効果的に活用することを目指す。)

以下の授業づくりの視点を意識してください。

## 授業づくりの視点

- ☆各教科の見方考え方を働かせることができたか。
- ☆ICTは効果的に活用されていたか。
- ☆個別最適な学び、協働的な学びは実現されたか。

②は教材観, ④は児童観, ②～⑤は指導観につながる部分であると考えます。⑤については授業づくりをしていく中でどんどん変わっていく部分かと思えます。今日は決まっていなくても構いません。

本校では、研究主題をもとにした仮説の検証に向けて、左記のようなワークシートをもとに授業づくりを進めている。

その際授業づくりの視点の1つとして、「個別最適な学び・協働的な学びの実現」をキーワードとして挙げている。下記は本校で共通理解している「個別最適な学び・協働的な学び」のイメージである。これらを両輪として、一体的に充実させていくことを目指している。

## 個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実イメージ

## 個別最適な学び・協働的な学び

必要に応じて、ICTツールを活用したり、1人で粘り強く取り組んだり・・・  
自分に合った解決方法を自由に選択し、決定することができる。

## 個別最適な学び

友達と関わる必然性を生み出し、共に問題解決を図ろうとする。

## 協働的な学び



次ページは、授業事例

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立啓成小学校（鳥取県）

## 【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指すために、ICT活用を明確に位置づけた授業づくり

## 6年生算数科の実践より

実際に指導案を作成する際には、以下のように授業づくりの視点に対する具体的な記述を行った。本時は共同編集可能な学習支援ソフトを活用した。

※形成的評価については「・」、総括的評価を行うための資料として記録に残す評価については「○」を付けている。

## 5 展開

- (1) 本時目標 数量の関係が分数倍（割合）で表された場面で、分数倍（割合）や比較量を求めることができる。
- (2) 準備物 掲示用資料、配布用資料、テレビ、chromebook（教員用・児童用）
- (3) 授業づくりの視点について

教科の見方・考え方

→小数倍（割合）の考え方に着目し、乗数が分数の場合でも割合の考え方が適用されることを理解できるようにする。（乗法の意味の拡張）

ICTの効果的な活用

→考え方や課題解決に向けてわからない点について、共有するツールとして活用する。

個別最適な学び、協働的な学び

→②の ICT の活用を通して、必要に応じて情報を得たり、発信したりすることができるようにする。

## 【現時点における成果】

クラウド環境上の学習支援ソフトを活用することで、全体で解決の時間をとらなくても、必要な時に必要な情報を共有することができた。

また、解決に向けての必要な情報（立式や大切な考え方等）が記録として残るので、いつでも紹介したり、参照したりすることができた。



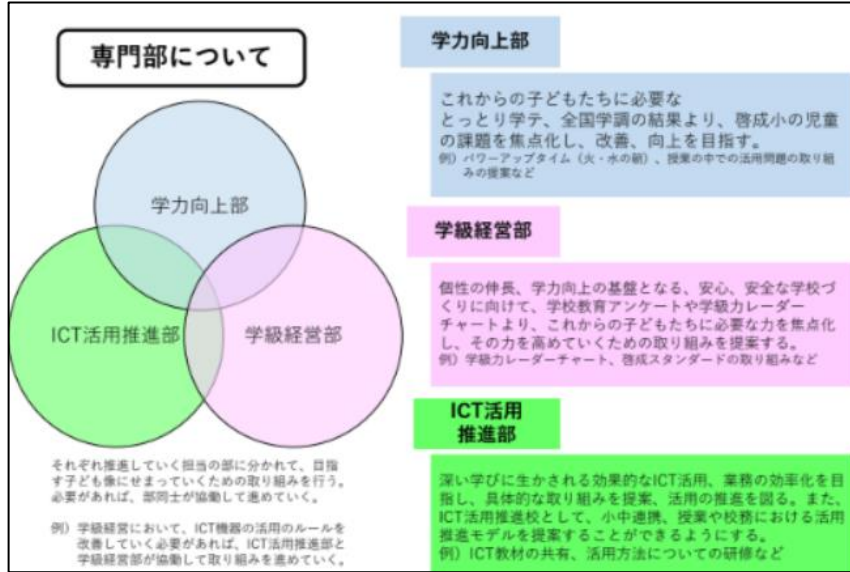
課題解決に向けて、クラウド上に自分の情報を発信する様子。

直接やりとりした方が良いことについては自由に友達のところに行き一緒に解決しようとする姿が見られた。

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立啓成小学校（鳥取県）

## 【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰り推進に向けての取組



本校では、校内研究を推進していくための組織として、専門部会を設けている。その内の1つである、**ICT活用推進部**が端末の日常的な持ち帰りについて提案、推進していく立場を担うことになった。充実させていくために、必要に応じて他の部会と連携をとるようにした。

### 【実践】

2024年2月現在、全ての学年において持ち帰った端末で家庭学習を実施している。

### 1～6年生共通の取組

- 1～6年生において、宿題としてドリルソフトの課題を活用している。（3学期以降は週に2回を基本に持ち帰るようにしている。）6年生においては、Classroomのストリームを用いて、リアルタイムで分からない問題についての情報交換や、宿題完了報告を行うようにした。

### その他の取組

- 1、2年生では、生活科の学習に必要な写真を端末を活用して撮影してくるという課題を出した。
- 3年生では指定されたサイトのタイピング練習を行った。
- 6年生では、総合的な学習のまとめスライドづくりに取り組んだ。

### 専門部（ICT活用推進部）

#### 主な目的

深い学びに生かされる効果的なICT活用、業務の効率化を目指し、具体的な取り組みを提案、活用の推進を図る。また、ICT活用推進校として、小中連携、授業や校務における活用推進モデルを提案することができるようにする。

例) ICT教材の共有、活用方法についての研修など。

取り組み	実施時期、実施方法など
校内業務改善：児童の出欠 オンライン集会（教員） ICT活用研修（グループ） 学級経営・校務・授業改善など 実践の紹介	4月～ 6月中に研修を予定（希望者）
児童 持ち帰り学習 児童集会（委員会） 家庭学習として・長期休業の自主学習 クラブ活動発表 小中連携	→6月の土日（初めは高学年） 徐々に学年や内容を広げていく 持ち帰りのルール（中学校区のもの参考にして、自校のものを作る）

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立啓成小学校（鳥取県）

## 【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰り推進に向けての取組

## 【ICT活用推進部】 1学期反省&amp;2学期に向けての取り組み

児童出欠確認、オンライン集会については達成 全校集会等オフラインの集会との使い分けもできた

グループに加えて の研修もしたい

活用実績

1年生 朝顔の観察、お絵かき タブレットドリルとの連携も視野

2年生 文字入力は難しい（自治体によっては2年生でもタイピング実践有） 給食キャラクターの作画とフォームアンケート

3年生 ストリートビュー活用 タイピングに課題

6年生 持ち帰り学習 全員オンラインで実施 オフラインは事前準備が必要(時間と手間かかる)

デジタル教科書がほしい。算数は登録してないだけで用意可能かも？

タイピング検定したい。（学級単位等小規模 和田小実践）

設備面も予算がつき次第整えていきたい。（電子黒板等）

持ち帰り学習 全学年2学期中に実施（できれば2回）ルールが未策定 6年は暫定的に学校のルールで実施 10月と11月？ 冬休み前？ 写真を撮ってくる（1、2年生）

特活 ダンスクラブは配信で活用予定

小中連携 特文 動画での交流 学校の様子のVTRしてみたい

## 【ICT活用推進部】 2学期反省&amp;3学期に向けての取り組み

活用実績

○1年生は、写真をテレビに写して提示。（Classroomなどに、アップされたものを。）だいぶ活用には慣れてきている。 は使っていない。体育はまだ活用がない。

○2年生は連絡帳がホワイトボードから、クラスルームでの指示に変わって、慣れてきている。（朝の段階で、各自クローームを開いて書く。）2年生 は使った。体育ではICT活用がまだない。

○5、6年算数・国語・理科・体育・総合的な学習等で使用。振り返りや学習の指示など、教科の内容以外でも使用している。

3学期に向けて

○タイピング検定を行いたい。（3年生以上）

○12月4日、5日の持ち帰りを受けて、先生方にアンケート（課題や今後考えていくべきこと。）

○3学期クローーム持ち帰り（2回以上→日常使いにつなげていく。）

ICT活用推進部会では、左記のように定期的に部会を設け、活用の進捗状況や、職員から出た意見や、表出した課題を解決していくための取り組みについて話し合うようにした。

## 表出した主な課題とその解決策

- ・破損等、児童に自己管理させることに対する不安がある。  
→児童に、学校で使用している端末持ち運び用のバッグに必ず入れて登下校させる。
- ・持ち帰らせる目的を明確にしたい。（家で何をさせればよいのか。）  
→ドリルソフトを基本として、それ以外にも柔軟に発達段階に応じた課題を出す。授業に活用できそうな課題を考える。
- ・家でのルールを明確にする必要があるのではないか。（新たに家庭用のルールを作成するべきではないのか。）  
→校内で既に使用しているルールを家庭でも適用する。状況に応じて児童に判断させる力も必要である。

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立啓成小学校（鳥取県）

## 【取組内容④】 Jamboardを活用した、授業研究会の実施

### 授業研究会の流れ（職員連絡用）

**校内研**

令和5年10月20日(金) 14:50~16:35 @ふれあい棟多目的室

---

**研究主題**

いきいきと思考し、ともに高め合う子どもの育成  
～ICT活用で創る新しい授業・学校のかたち～

---

**授業公開**

5校時（13:45～14:30）  
5年1組 授業者 河村 清  
国語科 物語のおもしろさを解説しよう  
「注文の多い料理店」

**授業づくりの視点**

- ・教材の見方、考え方を働かせる授業を目指す。
- ・ICTの効果的な活用場面の提案。
- ・個別最適な学び、協働的な学びを目指す。

---

▲：塚田 土田 河上 松林  
●：加 田中 遠藤ま 原田 遠藤と  
◎：吉田 山本さ 市橋 泉 安部  
◇：新宮 山本よ 波左間 日満

---

**アイスブレイク（高学年部）** 14:50～14:55

**授業研究会**

1 授業について

○授業のねらい・質疑応答 14:55～15:05

○グループワーク 15:05～16:00

【KJ法】説明5分/付箋記入10分/協議2.5分/問い記入5分/グループワークで生まれた問いを共有したり、代案について提案したりする。(10分)

Jamboardの利用を予定しています。クロームブックをお持ちの先生方は、ご持参下さい。お持ちでない先生方には児童用のクロームを準備したいと思っております。

**協議の柱**

- ・授業づくりの視点が達成されていたかどうか。

2 指導・助言 16:00～16:30



授業者は、夏季校内研修を経て「3つの視点」を意識した授業づくりを、学年部会で協力しながら行ってきた。

授業研究会では、協議は、実際の授業の中でこの3つの視点が達成されていたかどうかについて協議を行った。

本日の会のJamboard 投稿日: 2023/11/24

グループ別にお入りください。

<p>Aグループ (11.24)</p> <p>Google Jamboard</p>	<p>Cグループ (11.24)</p> <p>Google Jamboard</p>
<p>Dグループ (11.24)</p> <p>Google Jamboard</p>	<p>Bグループ (11.24)</p> <p>Google Jamboard</p>

資料を表示

協議会流れ 投稿日: 2023/10/20

予め割り振られた協議グループのJamboardに入り、協議を行う。

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立啓成小学校（鳥取県）

## 【取組内容④】 Jamboardを活用した、授業研究会の実施

協議の視点「授業づくりの視点は達成されていたかどうか」

**記入事項** …… みんなで考えてみたいこと（問い）

**記入事項** …… 個人の意見・感想

上記の事項について、付箋の色を変えてシート2・3・4に書き出してください

### グループとしての問いや代案

**代案**

- ・遊んでいるのを動画にとって、みんなで客観的に動画を見てアドバイスをする。
- ・「遊び方の説明を聞く場面」を中心に活動する方が「遊び方」にしやすいのではないか。

**問い**

- ・低学年のICTに関するスキルアップのためにしたほうがよいことは？

**ICTについてその他**

- ・ICTのスキルアップのための カリキュラム作成が必要



Jamboardによる協議は、今まで付箋を用いて行っていたKJ法の代案として行った。整理のしやすさ、他グループでの振り返りの共有のしやすさ、保存のしやすさについて大きな利点があった。実際に協議しながら気がついたことをすぐに書き込んだり、付箋を動かしたりする職員の様子を見ると、協議の円滑化に大きく役立ったと思われる。

### ④教科の見方・考え方について

→自分達が作ったおもちゃを使って遊び、友達とルールや遊び方の工夫を相談する活動を通して、友達と一緒に遊びを創り出す面白さに気づき、遊びを創り出すことができるようになる。

「遊び方」に限定するために、遊ぶ説明だけ聞く学習したら、「遊び方」に限定されたのではないかな。

児童が遊びを楽しむ姿は大いにあったが、ゴールの思考においては、遊び方というキーワードの捉え方がまちまちだったように感じた。

学習のゴールを提示したのが、よかった。「遊び方」の工夫はすでに考えた上でのアドバイスは、少し困難さがみられた。

**相手意識を大切に声掛けがよかった。**

おもちゃを創り出す喜びや面白さを味わうことができていた。そこからの工夫が遊びの中でアドバイスまでに行き着きにくい児童もいた。（アドバイスのコツは、よかった。）

「遊び方に注視して」との発問に対し、具体的にどのように声かけばいいのか迷っていたように見受けられた。

2年生においてどのような働きかけや声掛けをするか、ねらいにせまることができるか。

**コツや支援を提示**

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立啓成小学校（鳥取県）

## 【取組内容④】 Googleスライドを活用した指導案検討、作成

7月24・25日夏季校内研修について

研究主題  
いきいきと思わせ、ともに高め合う子どもの育成  
～ICT活用で創る新しい授業・学校のかたち～

以下の流れを参考に、授業づくりを進めていって下さい。

- ①単元、授業場面の設定をする。(学年、教科、単元・題材名、第○時・・・)
- ②単元、または本時でどのような力をつけることができれば良いのか検討する。(ゴールイメージを持つ。)
- ③本時では、どのような教科の見方・考え方を大切にしたいかについて検討する。(前回の校内研修で実施して頂いた、各教科のポイントを参考に)
- ④学年部ごとに児童の実態について話し合う。(学習面・生活面等)  
・良いところ  
・課題
- ⑤ICT活用方法を検討する。(つきたい力に向けて、効果的に活用することを目指す。)

以下の授業づくりの視点を意識してください。

授業づくりの視点  
☆各教科の見方考え方を働かせることができたか。  
☆ICTは効果的に活用されていたか。  
☆個別最適な学び、協働的な学びは実現されたか。

②は教材観、③は児童観、④～⑤は指導観につながる部分であると考えます。⑤については授業づくりをしていく中でどんどん変わっていく部分かと思えます。今日は決まっていなくても構いません。

持参物(必要に応じて)  
・指導要領解説  
・教科書(授業者の先生はコピーをとるとお願いします。)  
・タロムブック

高学年部

- ①単元、授業場面の設定をする。(学年、教科、単元・題材名、第○時・・・)  
5年、国語、物語の面白さを解説しよう・注文の多い料理店、第時
- ②単元、本時でどのような力をつけることができれば良いのか検討する。(ゴールイメージを持つ。)  
人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりし、見つけたおもしろさを解説する文章を書いた本のポップを作る事ができる。
- ③本時では、どのような教科の見方・考え方を大切にしたいかについて検討する。  
表現の工夫(反復、比喩、色彩を使った表現、擬声語・擬態語、物語の構成、物語に引き込む工夫など)を見つけ、それらが物語にどのような効果をもたらしているかを考えること。
- ④学年部ごとに児童の実態について話し合う。(学習面・生活面等)  
自分の思いを表現するのが難しい。
- ⑤ICT活用方法を検討する。(つきたい力に向けて、効果的に活用することを目指す。)  
スライドでポップを作成。  
できたポップをタブレットにアップして、アドバイスをし合ったりよいところを共有したりする。
- ⑥その他  
毎時間の最後に、10分で自分のおもしろかった表現を友達と共有する。  
自分と友達との捉え方の違いをまたおもしろいと感じる児童もいるかも・・・審議が大切。  
ポップの見本を作成して教室に置いておく。  
スライドで個人配布して作る。

R5情報共有用 > 夏季校内研修 > 見方・考え方・

種類 > ユーザー > 最終更新 >

ファイル

国語見方考え方に...  
算数見方考え方に...  
各教科見方考え方に...

算数授業づくりのポイント  
2022.7.27啓成小学校内研

- 1 算数科の特性について
- 2 算数科のゴールイメージとは
- 3 数学的な見方・考え方を働かせ

「見方・考え方」を意識した  
授業づくり  
～資質・能力の育成に向けた授業改善～  
小学校段階

第4学年1組 算数科学習指導案  
日時 令和5年11月30日(木) 5校時  
指導者

- 1 単元名 図を使って考えよう
- 2 単元について

**単元観**

- ・なぜこの単元を扱うのか。
- ・本単元を通して、児童はどのような力を身につけることができるのか。

について、基本的には学習指導要領を根拠に説明する。

本学級の児童25名は、算数の学習に対して積極的に学習に向かう児童がいる反面、つまづいた時に諦めがちになる児童がいる。計算問題などのスキルの学習には前回のめりに学習に向かう児童が多いが、図を活用したり、説明したりといった思考を伴う学習に対して抵抗を感じたり逃避がちな児童もいる。これまで3年時ではわからない数を□として置き、図を使って計算の仕方を考えたり、図を使うことによって具体的な場面を解決することの良さを知ったりすることなどを学んできた。しかし、「順に」考える思考法はできていても、目的から逆向きに「順にもとめて」考える思考法をイメージすることは難しいと想定される。

**指導観**

単元観・児童観をもとに、その単元・題材で何を指導するのか具体的に書く。

- ・指導の重点、目標等。
- ・学習の流れに沿った、指導目標に対する中心となる手立てや指導の工夫、学習形態や教師の支援等。

授業づくりの以下の3つの視点に関わる工夫があれば、ここに書く。

- ・各教科の見方・考え方を働かせる。

ICTを活用せずに指導案検討や作成をしていた頃は、全員集まって授業づくりの流れを確認したり、作業を行ったりしていた。

働き方改革の業務時間削減の視点から、Googleスライドの共同編集機能を用いて、必要に応じてドライブ内に保存してあるデータを取り出したり、部員が集まらなくても個々が作成を行うことができるようにしたりして、円滑な指導案検討、作成を行うことができた。

指導案検討、作成に要する時間は以前の3分の2程度になった。